公立保育園等の巡回点検 報告書【概要版】

※「こどもの性被害防止対策パッケージ」Ⅰ 未然防止（3）環境整備 に掲載

実施目的

こどもの安全と権利を守り、性被害を未然に防ぐため、**専門的所見を有する外部有識者等の多角的な視点**による施設点検を行い、改善に向けた指導助言を踏まえ、安心できる環境を整える。

外部有識者等による多角的な視点からの巡回点検を行う理由

- 施設関係者による点検は「慣れ」や「思い込み」により、危険箇所を見過ごす可能性がある。また、内閣府の調査等では性犯罪の多くが施設外ではなく施設内で発生すると言われていることから、外部有識者等による多角的な視点が必要不可決。

■ 巡回点検チーム　※施設管理者、市関係課も同行

区分	所属等
学識経験者	熊本大学大学院 准教授
性暴力被害者支援	（公社）くまもと被害者支援センター
警察	各警察署【中央・東・南・北合志】
防犯設備	（一社）熊本県防犯設備協会

取組概要

外部有識者等含む「巡回点検チーム」を編成し、公立保育園等の巡回点検を行い、施設内の死角をなくす取組のアドバイスを実施した。

【実施日程】令和8年6月～8月の期間に実施

【対象施設】公立保育園（19園）、公立幼稚園（6園）、児童相談所（1施設） 計26施設

【実施内容・手順】

- 施設図面を用いて施設内を巡回し、こどもの性被害が起こり得る死角となる場所を洗い出す。
- 施設巡回後は、巡回点検チームと施設管理者等で意見交換を行い、巡回点検チームのメンバーからのフィードバックやアドバイスを受けながら、施設の環境改善に向けた検討を行う。

※ 巡回点検の際は盗撮カメラの探知機を活用した調査も併せて実施

【巡回点検チームからの主な意見】 ※一部抜粋

- 防犯カメラだけでは性被害を防ぐことはできないため、死角や危険箇所を職員間で共有し、施設全体の安全意識を高めることが重要である。
- 防犯カメラは証拠保全等に有効であり、プライバシーに配慮した適切な設置・運用と映像の適切な管理が求められる。
- こどもの変化を見逃さず、相談しやすい環境づくりや職員研修の充実を図ることが大切である。
- 性被害は内部や想定外の場所等どこでも起こり得るという前提で、不規則な見回りや職員同士の継続的な協議を行い、未然防止に努める必要がある。

改善取組：ハード面（環境改善）

- **屋内防犯カメラの設置（公立保育園）**（令和8年8月補正予算に計上）
  ➡性被害の未然防止・早期発見につなげるため、屋内に防犯カメラを設置
  ※アドバイス等を踏まえ、設置予定だったカメラの設置場所や機能を整理
- **掲示物の撤去、掲示位置の調整**
  ➡扉や入口ドアの掲示物を外し、視認性を改善。
  （掲示物の撤去が難しい場合は、中が見えやすいように掲示位置を低く調整等）

【給食室の扉：掲示物撤去】



改善取組：ソフト面（運用）

- **安全管理意識の向上**
  ➡性被害が疑われる事案が発生した際に、早期に把握できる環境を整えるために普段から相談しやすい職場風土を醸成する。
- **不規則な見回り**
  ➡防犯カメラに加え、職員の目（見回り）が重要であることから、不規則な見回りを実施する。

今後の展開

巡回点検で得た気づきや改善事例等を私立保育所等にも共有することで、社会全体の安心な環境づくりに繋げていく。